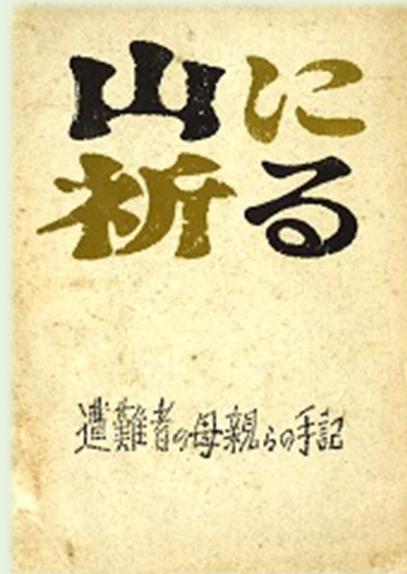


# 合唱組曲「山に祈る」

## コロナ禍でステージ断念！



加藤良一 2025年2月14日

「山に祈る」は、もともと男声四重唱と小管弦楽のために創られた合唱組曲でした。その後、大きな編成でも歌えるような曲も作曲されています。

昭和34年(1958)秋、長野県警察本部は遭難者の遺族の手記を集めた「山に祈る」という小冊子を発行して遭難防止を訴えました。その中に記された、遭難した上智大学山岳部メンバーの日誌と、その母親の手記にもとづいて男声ヴォーカルアンサンブルのダーク・ダックスが、合唱組曲をつくろうと考案し、作曲を作曲家清水脩氏に依頼しました。それを受けた登山の好きな清水脩氏にとって、山岳の遭難事故はひとつとではありませんでした。当初作曲されたのは、ピアノ伴奏による男声四重唱でしたが、男声合唱版、さらに混声合唱版も作曲され、オーケストラ伴奏版にも編曲されています。

清水脩氏は、作曲に込めた思いをつぎのように書き残しています。

一遭難者が書き残した最後の手記と、我が子をなくした母親の朗読と歌とで進めたものであるが、曲はできるだけポピュラーなものにしようと努めた。誰もがすぐに口ずさめる平易なメロディーで埋めた。主人公の元気な姿から死にいたる筋に合わせて、明るい曲調から次第に暗い曲調へと移ってゆくようにした。雪山登山とその遭難について、できるだけうそのないものを書きたい。また私自身の山への思慕も盛った。そしてこの曲が頻発する山の遭難防止に少しでも役立てば、作者として望外の喜びである。

清水脩：合唱組曲「山に祈る」  
 オーケストラ版  
 作詩作曲・指揮：清水 脩  
 二期会合唱団／東京フィルハーモニー交響楽団



[https://www.youtube.com/watch?v=cA\\_ybbFBCHo](https://www.youtube.com/watch?v=cA_ybbFBCHo)

2

お母さん

ごめんなさい

故 飯 塚 揚 一

昭和三十三年三月十七日、上智大学山岳部OBの飯塚揚一君(東京都荒川区日暮里町二の四三)は、先に登山したパーティに追い着くため、燕山荘から、単独で前進キャンプのある牛首コルへ向かいましたが、途中から天候が急変し、猛吹雪となったため、ビバーク中に凍死をしてしまい、五月一日に大天井岳付近で遺体となって発見されました。  
 これは、同君が、襲いかかる。死。への恐怖の中で、持っていた山日記へ書き残された辛い手記です。

十七日

早く皆に会いたかった。岡部を燕山荘に残して、大天井まで来る。吹雪でトレースわからず、時間は四時なのでビバーク地探す。きょうは、ビバークか。

十八日

午前七時十五分。いぜんとして吹雪おさまらず。

昨日の五時より十四時間と二十五分たった。昨夜は六時間ぐらい眠ったが、場所がよくないので寝苦しかった。きょうの明け方より腹の方が体温でぬれて来た。

今朝パンビタン五個をのむ。食欲はない。乾パン十枚あるから節約して食うつもり。ハムはシラーフの下なので出

せない。

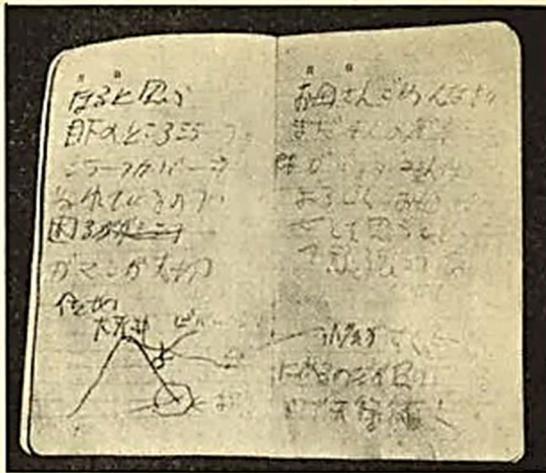
春の吹雪だから長くは続かないと思うが、今ばんもここにいれば、明日はよくなると思う。目下のところ、シラーフもシラーフカバーもぬれているので困るが、ガマンが大切。

小屋がすぐ近くにあるのだが、疲れているので天候待ち。お母さんごめんなさい。まだ四人の弟、姉、妹がいます。

みんなによろしく。お母さんのことを思うとどうしても帰りたい。

十三時十五分。いぜん吹雪激しく視界きかず。時々顔を出して見るが出発は出来ない。下半身が完全にぬれて苦しい。何故一人で無理をしたのかいまさら悔まれる。山の天候のカーンも悪かった。山でうぬぼれず常に自重すること。

(原文のまま)



<https://www.doremi.or.jp/102/yama/%E5%B1%B1%E3%81%AB%E7%A5%88%E3%82%8B.pdf>

## ◆◆ コロナ禍で消滅した『山に祈る』のステージ ◆◆

2019年12月、埼玉県久喜市で活動する久喜混声合唱団の指揮者・齊藤映二さんから、混声合唱曲『山に祈る』への参加呼びかけがありました。久喜混声合唱団第12回演奏会(2020年9月26日)で披露する予定でした。参加者は、久喜混メンバーに加え、賛助出演としてクリオネ、シンプソング、あんさんぶる「ポパイ」、コール・グランツなども含めて総勢45人が登録していました。筆者も旧友である齊藤さんのお声がけに応じて参加表明していました。

練習は、2020年1月から8月まで月1回のペースで行うと決まっていた。ところが、年が明けて2020年1月に新型コロナウイルス感染症のパンデミックがはじまり、多くの人びとが集い合うことも、練習会場の確保もできず、どうすることも叶わないうちに計画は頓挫してしまいました。

齊藤さんは、「1年程度の延期」はやむを得ないと2020年5月付の手紙に認めていましたが、その後一向にコロナ禍は終息する気配を見せませんでした。やきもきするうちに自然消滅のように中止の判断が下されました。けっきょく、一度も練習することなく『山に祈る』の計画は中止とされてしまいました。齊藤さんはその後体調不良もあり、再開困難と諦めているようです。いずれ何らかの形で演奏される日が来ることを期待します。

---

[Back](#)

音楽・合唱コーナーTOPへ

[Home](#)

Topページへ戻る